

## 中学1年

記者として働く人たちはとてもすごいなと思いました。また、「夜討ち朝駆け」という言葉があり、夜に警察などの人に取材をしに行き、朝には人が出てくるのを待って取材をしに行くの意味があると知った時はおどろきました。私が、普段読んでいる記事には一人一人の記者が一つ一つ取材をしてやっと出来上がるんだと改めて感じました。私はこれからも機会があれば新聞を読みたいです。

僕は、NIEの授業を聞いて記事を出すには、たくさんの苦労があるんだなと思いました。まず、夜討ち朝駆けといい刑事さんの家をつきとめて、夜の7~8時頃からみはりをし、朝にも出てくる場所をみはるといふ苦労な仕事を1カ月程続けると聞いてビックリしました。1カ月程しつこくみはらないと情報は、聞き出せないんだなと思いました。僕たちが毎日普通に見ている新聞の記事は、このような大変な苦労がつみ重なってできているんだなと思いました。これからも、頑張りたいと思いました。

今回のNIEの授業で新聞や新聞記者に対する気持ちが変わったと思います。新聞に関しては、スマホなどのインターネットがあるから新聞なんて必要ないという考えだったけど、この授業で新聞も大切なところはあるんだなと思いました。そしてこの授業ではとくに新聞記者に対する気持ちが変わりました。前までは被害者に取材しに行く、この事に僕はひどいと思っていました。でもそれは、ただ記事を書くためにしているんじゃなく、いち早く知ってもらうために、これ

からにいかしていくために取材している事を知り、新聞記者も新聞記者で考えてやっているんだ  
なと思いました。これから少しずつ新聞にふれてみようかなと思います。

今回、朝日新聞の人の話を聞いて印象に残っている言葉は「夜討ち朝駆け」です。「夜討ち朝駆け」とは、夜に訪ね、また早朝にも訪ねて接触を図るという意味です。主に新聞記者などが取材のために使うものです。記者は文を書くためにやるのですごいなと感心しました。また驚いたことは、朝日新聞の社員は約30年前は「7000~8000人」だったのに現在では、「4500人」だそうです。この社員の減少の原因はやはり新聞に触れる人たちが少なくなってきているしインターネットを使う機会が増えたからだと言っていました。僕もその話を聞いて共感しました。僕自身もあまり新聞を見たり読んだりしていません。

朝日新聞の区分は8つあって「政治・経済・スポーツ・学芸・文化・社会・整理・地域報道」です（東京本部対象）。僕はこんなに区分があるのだと初めて知りました。転勤は2年に1回だそうです。社员的には男女半々くらいと言っていました。

最後に、このような話を聞いて新聞は人々の努力と経験が文といっしょに刻まれているように思いました。

堀江さんが新聞の話や新聞記者の仕事の内容に話してくれました。また、夜討ち朝駆けや容疑者の人権問題や被害者への質問の内容などの問題について話したり。新聞局のなかにも、いろいろな部があることが分かった。例えば、経済部、スポーツ部などがある。僕はあまりなれてない人とは、話せないので、僕はなれないけどとたもすごい仕事というのはわかりました。

先日は朝日新聞の神戸総局の総局長である堀江泰史さんがNIE(newspaper in education)を教えに来てくださいました。まず総局は県庁所在地に43社あり、あとの4社は大阪、東京、名古屋、西部(九州)にある本社で、県庁所在地以外の所にあるのは支局で222社あるそうです。私は新聞が1番正確と思われているのは知っていました。でも1番正確な全国の情報を伝えるために全国から情報を集めていると知り驚きました。私もどんどんNIEを取り入れた授業をしてみたいです。

僕は、NIEの授業を通して新聞や新聞記者についてたくさんのことを学びました。例えば「夜討ち朝駆け」などの今までに聞いたことのない言葉などを教わったり、新聞記者についての、他の場所では聞けないような、新聞社にある「部」の話なども聞くことが出来ました。特に僕が興味をもったのが、新聞を読む人が少なくなって、インターネットなどで読む人が増えているということです。僕の家では話新聞を取っているのですが、どのぐらいの割合で新聞を取っているのか、調べてみても、面白いと思いました。

記者の人ってこんな思いで取材しているんだ、新聞会社にはこんなところがあってこんなことをしているということなどをたくさん教えてもらい、すごく勉強になりました。特に記者の人の取材の方法の夜討ち朝駆けや、どの新聞会社も今新聞の発行部数が少なくなってきて、どの新聞会社の新聞でもいいから新聞を読んでほしいと思っていることなどたくさん僕の知らないことが知れました。他にも事件事故の被害者遺族への取材で、記者の人が皆んなに少しでもその人の気持ちを知って欲しいと言う気持ちがあったり、大変な思いで取材しているのだと知って、新聞記

者という仕事は、肉体的にも、精神的にも大変な仕事なのだと知りました。新聞記者の人達は本当にすごいと思ったのと、僕たちに情報を送り届けてくれてありがとうございました。

今回の堀江さんの授業で一番印象に残っているのは、新聞記者は「夜討ち朝駆け」が基本ということです。社会部では、刑事さんなどにそれをして断られたり怒鳴られてもそれを続けるのが根性あるな、と思いました。でも話では、それを1ヶ月くらい続けていたら少しずつ話してくれるとかくれないとか。言っていました。そういうことをしているし、例えば殺人事件の被害者の遺族などに今の気持ちなどを聞いたりしているせいで、新聞記者は冷たい、何考えてるんだと思われるかもしれない。と言っていました但实际上は、全然そんなことないそうです。これからもテレビやインターネットよりも信頼がおける情報メディアとして頑張ってほしいです。

記者の方が直接お話を聞かせて下さいました。新聞社の中にはどのような部署があるのかや新聞社は全国にどれくらいあるのかなど興味深い話を聞くことができました。聞いた話の中で最も印象に残ったのが「夜討ち朝駆け」という言葉です。理由は、情報を得るためにはこのような大変なこともしなければいけないということに驚いたからです。また、多くの人に情報を届けるために全力を注げるのもすごいことだと思いました。最後に私は、家では新聞をとっていますがあまり読んだことがありませんでした。しかし、今日の話聞いてみると記者の方の正しい情報を届けたいという強い思いや新聞は読者のために多くのことが工夫されているということを知ってインターネットやテレビだけでなく新聞からも情報を取り入れるようにしようと思いました。

私が、今回の話を聞いて心に残ったことがあります。1つ目は、いろいろなことが分ったことです。私は新聞のことがあまり知らないです、でも先生がいろいろなことを教えてくれたので新聞のいろいろなことが分かりました。新聞のことが、分かったのでとても嬉しかったです。2つ目は、先生の話が聞けたことがとても嬉しかったことです。なぜかと言うと、メモがとれたということです。そのメモには、先生が話してくれたことを、メモしています。だから私は、このメモを大事にしていきたいです。今回の新聞の話を聞いて良かったなと思いました。

私はNIEの授業で、普段分からないことや知らない言葉を勉強出来たので、とても良い経験が出来たと思います。本社がある所は総局がないこと、新聞社は政治部・経済部・スポーツ部・芸能部（文化部）・科学医療部・社会部・整理部等のたくさんの部署でまとめられていること、夜討ち朝駆け等を学びました。あと、堀江さん自身の体験話も聞くことが出来ました。自分の進みたい道に進むことが大切と言う堀江さんの言葉がとても印象的でした。私も後悔のないように努力し、自分の進みたい道に進んで行こうと、強く思いました。

印象に残ったところは、2つあります。1つ目は、スマートフォンでニュースを見る人が増えているため最近では新聞を読む人が少なくなり、記者は自社の新聞を勧めるのではなく、新聞自体を勧めるようになったというところです。2つ目は、事件が起こると夜、警察署員の家に行き、待ち構えて何か情報を得るまで朝にも行き、それを繰り返すという夜討ち朝駆けをしているということです。今回NIEの授業を受けて、新聞記者は聞きたくないことも聞かないといけないという辛さや、情報を得るまで地道に調べるなど私が思っていた以上に深い仕事だと思いました。

水曜日に新聞の講演会がありました。朝日新聞の記者さんが授業をしてくださいました。昔は、7000～8000人が働いていたそうですが、現在は約4500人になり減っているということがわかりました。また最近では、女性の方が採用率が高いということを知り、びっくりしました。日本には、神戸総局や京都総局、前橋総局など43個の総局があることや洲本支局や姫路支局、豊岡支局など222個の支局があるということを初めて知りました。こんなにもたくさんの総局や支局があり、すごいなと思いました。今回一番印象に残ったのは、「夜討ち朝駆け」という言葉です。新聞記者の基本だそうで、何回も調査しに行き、関係を築いていくという意味だそうです。また、少しでも悲しい事件や事故をなくすために、被害者の気持ちを聞いているそうです。今回の授業で新聞記者の仕事などを詳しく知ることができました。私は、あまり新聞を読んだことがなかったので、少しでも新聞を読む機会を増やしていきたいと思っています。

ぼくは、たくさんのお話をまなびました。特に印象に残ったことは、夜打朝駆けという言葉です。これの意味は、夜に、刑事の言えに行き、帰ってくるまで家近くで待って監視するということでした。新聞記者の人は、こんなことをしているほど、頑張っていることが伝わってきました。最近では、新聞を読む人が減ったと言っていてびっくりしました。僕の家では、新聞をとっているだけで新聞を取る人が増えればいいなあと思いました。新聞を作っている人は、毎日大変なことがわかりました。これからも、新聞を読む僕たちに、たくさんのお話を伝えてください。ありがとうございました。これからもお仕事頑張ってください。

今回の新聞記者の方の話では、「夜討ち朝駆け」という言葉を知りました。この言葉の意味は朝に現場に行き、夜に戦うという事です。この方のお話では、何回も何回も聞き込みに行き、どん

どん聞き出して行くという情に訴えかけるという、汚い手段でした。(笑) この話を聞いて僕は、新聞をなるべく読み、情報を取り込もうと思いました。

私は、最初 NIE は新聞を読むだけの授業だと思っていたけど実際に受けてみると新聞記者の人が読者の方のために色々な情報を得るために取材をしていることに感心しました。最近では、新聞を読まない人が増えていると知りましたが私自身もあまり読まないのが今回の講演会で私もネットの新聞から始めて読んでみようとおもいました。講演会のときにもらった新聞に京都アニメーション放火についての記事について書かれていましたが自分もアニメを見るので許せないと思いました。これからも新聞を読んでいきたいです。

私が印象的に感じたことは、「夜討ち朝駆け」です。いつも新聞を見た時に気になることが、こんなに沢山の誰も知らない情報をどうやって調べているんだろうということです。まさか家を調べて聞き出しているとは思いませんでした。メディア関係の仕事をしている人はすごいなと思いました。そしてカッコいいと思いました。それと私も一度「夜討ち朝駆け」をしてみたいなとも思いました。「夜討ち朝駆け」の話を聞いていて、ドラマみたいで、すごくわくわくしたからです。良かったと思ったところは、新聞記者の仕事と、朝日新聞のことについて知れたことです。新聞記者は、いろんな部に沢山の人がいて、みんな外に出て取材したりすると思っていたのですが、外に出ないで仕事をする人達もいることに驚きました。NIE の授業を受けてみて、すごく勉強になったと思いました。将来の夢が編集者になることなので、このお話に興味があったし、おもしろく感じました。また受けてみたいなと思いました。

今日は朝日新聞の堀江さんが、新聞について説明してくれました。私が1番印象に残っているのは、社員数です。昔は7000~8000人だったのに、今は4500人しか、いないと知ったからです。私は、もっといると思っていたので、堀井さんから、聞いた時はとても驚きました。理由はスマホなどの発達で、新聞が読まれなくなっている事だそうです。スマホだと、無料でニュースが知れるのは、楽だと思うのでみんな新聞よりも、スマホを使うんだらうな、と思いました。今日は堀井さんから、沢山の事を教えていただきました。新聞についての様々な知識を知ることが出来てよかったです。また、この知識を活かして新聞を読んでみようと思いました。また、機会があったら読みたいと思いました。家でも、新聞をとろうかなと思いました。

今日のNIEの授業で、いままであまりよく知らなかった新聞社や新聞記者の仕事について深く知ることが出来ました。今日来ていただいた講師の堀江さんは朝日新聞の記者ということで、私は家で朝日新聞をとっているのでもいつも読んでいる新聞をどのような人がどのように作っているのか興味があったのでこのような機会がありとても嬉しかったです。全国各地に総局があり、支店は222支店もあるのが予想よりもはるかに数が多くてびっくりしました。他にも芸能の記事を書く部署を大阪では、文化部や生活文化部と呼ばれているのに東京では文化暮らしの報道など呼び方が違ったり、九州にある本社を他の本社は都市の名前なのにも関わらず、「西武」と読んだり名前が独特なのが面白かったところが特に印象に残っています。

私は、「夜討ち朝駆け」が印象に残りました。個人の住所をつきとめ、そこに行き離れたところで待ち受ける。このことを何ヶ月も続けることは、とても苦々しいことだと思います。私だったら諦めてしまうのが目に見えています。なのに新聞記者の方たちは、諦めず耐え忍び、取材をす

ることに誇りを持っている。ある意味一番仕事のしがいがある職業なのかもしれません。しかし、辛いことに変わりはありません。改めて、新聞記者という仕事は凄いなと思いました。

今回の授業で、堀江さんに NIE の話を聞いて新聞、新聞記者の仕事についてたくさんの事が知れました。例えば、朝日新聞の東京の本社は政治部、社会部、整理部、科学医療部、経済部、スポーツ部、学芸部、文化暮らし報道部などに分かれています。総局は全国で 43 箇所ある。支局は、全国で 222 箇所ある。など、分かりやすく説明して下さい、とても理解できました。そして、私が一番印象に残っている言葉は「夜討ち朝駆け」です。この言葉は、初めて知った言葉だったのでとても印象に残りました。他にも、いろんなワードが出てきて面白かったです。今回、NIE の授業を受けて、いろんな情報を得るために、新聞を改めてしっかりと読もうと思いました。今まで、新聞について考えた事がなかったので、この授業を通してたくさん知れて、少しでも興味が持てたので良かったです。すごく勉強になりました。

僕が一番印象に残った言葉は夜討ち朝駆けという言葉です。とても 良い意味を持ちとても印象にのこりまさいた。僕は神戸新聞ですが よく読むところはスポーツと淡路の記事と科学のところですね。毎日新聞を読んでいるのでとても印象にのこっています。堀江泰史さんの話は僕の知らないことやとても良いはなしをしてくれました。朝日新聞社は総局と市局と本社がありさまざまな分類に分けて記事を書いているんだと初めて知りました。新聞の読んでいる割合は減っていますが僕はこれからも新聞を読んでいこうと思います。

ぼくは、NIEの授業をうけて、たいへんな仕事なんだなと思いました。夜討ち朝駆けという言葉は、初めて聞きました。夜に家に行って、朝にもまた行くのを繰り返すのはたいへんだとおもいます。また、記事に書いたことで避難されることもかなりあると知って悲しいなと思いました。それでも、新聞を読んでいる人たちのために、毎日より早くより正確な情報をとどける努力をしてくれています。今度新聞を読むときは、今回の授業のことを思い出して読んでみようと思います。

NIEってなんだろうとおもっていました。話を聞いてみて、総局は47都道府県にあり、その中でも本局があることなど、自分の知らない事をたくさん知れて良かったとおもいました。初めて聞いた「夜討ち朝駆け」は、取材する人たちの苦労や努力、粘り強さがよくわかる言葉でした。被害者の遺族に取材にあたる時、心がけている事など知れました。将来新聞記者にならなくても、人生に必要な事がたくさん知れたのですごくよかったです。京アニの事件での事や新聞記者の仕事など色々な事を含めてためになる話が聞けました。

ぼくが堀江泰史さんの話をきいて印象に残ったことは「夜討ち朝駆け」という言葉です。この言葉の意味は新聞記者などが夜遅くまたは、朝早くに取材先を訪ねるという意味です。他にも全国に4つ本社があることや新聞を読む人が少なくなっているのはなぜかなどがわかりました。また、社員数が4500人で思っていたよりも少なかったのでびっくりしました。ぼくは普段新聞をよみませんが今回の話をきいてぼくも少しよんでみようかなと思いました。

今日の NIE の授業を聞いて新聞を読む大切さが分かりました。なぜそう思ったかと言うと私も最初の頃は新聞を読みませんでした。でも私が受験をすると決めた時に母から、「新聞も読んでおくといいよ」と言われました。私は最初読まなくても思いました。でも実際読んで見ると自分の知らない事や大切な事が書いてあり初めて新聞を読む大切さに気づきました。今回この授業を聞いて新聞には約 8 個の部があるのを知りました。政治部・経済部・スポーツ部・化学、医療部・社会部・整理部・地域部の 8 個だと言う事が分かりました。私が気になった部は化学、医療部です。私は将来出来れば薬剤師を目指したいなと思っています。そのためには勉強が必要だと言う事も分かっているので今新聞の化学、医療部のところだけだけ見ています。見てみると、自分の知らない事が沢山書いてあってすごくワクワクしました。自分の知らないうちにどんどん新しい事が起こっては分かりと勉強になることばかりでした。最後に私はまだ沢山知らない事が沢山あります。しかも段々と新聞を読む人が減っている事も知りました。私も最初は新聞を読まない人でした。けど母に言われて読んで見ると自分うの役に立つ事も書いてあってそれから私は少しですが新聞を読んでいます。皆さんだって最初は面倒臭いと思いますが新聞読むことによって新しい自分が見つかるかも知れません。ですので一度は読んでみてはどうですか？

今回の授業は、自分の知らない事が多く知れてとても心に残る授業になりました。特に、印象に残った事は「夜討ち朝駆け」という言葉です。この言葉から、記者の仕事の大変さが伝わってきました。また、記者の地道な努力が新聞の一つ一つにつまんでいるんだなと感じました。他にも、新聞を作る時、実名か匿名かをじっくり考えて作っているという事が印象に残りました。自分はあまり新聞を読まないのですが、今回の授業で、政治部や経済部、地域報道部など様々なコ

コーナーがあると知ったので毎朝少し読んでみようと思います。そして、興味を持った記事を家族に紹介したいです。

中学2年

NIEの授業とはなんだろう。全く想像がつかないまま大会議室に入りました。すると予想にもしていなかった、新聞記者の方がお越しになっていました。前から中島先生が朝学に用意してくださっていた新聞を印刷したプリントがあったので、ほぼ毎週土曜日にそこで読んでいました。ですがその機会がなければ新聞を全くといっていいほど読んでいませんでした。記者さんが仰った通り、最近ではスマホを使って簡単にニュースを知ることが出来るので新聞とはかけ離れた生活もできるのです。しかし新聞では記者の方が取材や編集など数多くの手間と労力をかけて毎日、新聞を私達の元に届けてくれていることと取材の大変さを今回学びました。印象に残っているのは、遺族のもとへ事情を調査しに行く時に記者は「夜討ち朝駆け」という方法を使っていることです。家族のほうも毎日待たれているとなると情が湧いて打ち解けやすくなるという人間の心理を使っている所が凄いなと思いました。悲しみの底にいる遺族のもとへ取材へ行くのもだんだんと慣れたことになるのは、回数を重ねると気分の重さも減っていくからだと思います。これから新聞を読むようになったら、そんな記者のような裏方の気持ちになって読んでみようと思いました。

あまり新聞記者の方の話を聞いたことがなかったので、興味深かったです。朝日新聞で働いている人が1000人位かなと思ったら4500人もいると聞いてとても驚きました。昔は7500人もいた

のに新聞を読む人が減ったことが理由で 3000 人も辞めていったと考えると少し悲しい気持ちになりました。 私が 1 番印象的だったのが 夜討ち朝駆け です。私たちは普段何事もなく新聞を読むことができますが、記者の方たちは夜遅くまで事件のことを調べたり、夜で無理だったら朝の 7 時～8 時まで待って、それを何日も続けることによって警察と何かしら関係を築いていくということを知って 1 つの事件を調べることはすごく大変でしんどいことなんだなと思いました。あと、私の知らない学芸部や化学医療部、社会部、整理部などたくさんの 部 があって驚いたし、特に整理部の新聞の見出しなどをレイアウトする部が面白そうでやってみたいなと思いました。今の時代、新聞ではなくスマホでニュースなどを見れるようになったからこそ私たちが普段なかなか読まない新聞を読むことが大切で、新聞記者の方々が苦勞して取ってきてくれた情報きちんと見て、もっと社会の状況を知りたいなと思いました。

今まで聞いたことが無いような知識をたくさん知れたので、それを今後活かせるよう意識して生活しようと思いました。また、僕の家は新聞をとっていないので学校に置いてある朝日新聞を積極的に読んでいこうと思いました。

私はこの話を聞き、新聞の良いところを初めて知りました。新聞の良いところはテレビやスマホに負けない信頼性と新聞記者の手間暇です。そういえば朝のテレビに新聞をだしている事があります。新聞には難しい単語や長い文章が並び、その文字を読んでいくと強くなるというイメージが強かったです。この事によって、より早く完璧な記事を作り、朝刊と夕刊をどっちも作ってびっくりしました。今、無料でニュースを観れるので、新聞がいらなくなっている実感できます。でも、未来には残していきたいと思います。

私は、今回授業を受けて、記者として取材をすることはとても大変だということを知りました。情報を正確に捉え、真実を伝えるには地道に取材することが必要であり、また勇気のいる事だということも知りました。事件や事故の被害者への取材では、声を聞きその悲しみを伝えることを大切にしていると聞きました。悲しい思いをしている人の中には取材なんてできないと思う人もいます。それをしっかり理解して仕事をしているということが印象に残りました。“新聞記者”はたくさん努力をしないと成れない仕事だと思いました。

新聞社では、いろいろな人たちが、いろいろな部門で、取材をしたり、まとめたりして、作られているということを実感しました。何気ない日常の1つとして、存在しているけれど、その奥深くでは、たくさんの方の努力のかたまりなんだな、と思いました。今日、堀江さんの話を聞いて、今とむかしでは、新聞を読む人たちが減っていることを聞いて、ネットニュースとかを利用して人たちが増えていることを聞いて、新聞には、新聞の良さがあるので、そのよさを、知ってほしいなと思いました。あと、夜討ち朝駆けという言葉が、記者の大変さをあらわしているのかなと思いました。何気なくいえにある新聞を作ってくれた人に感謝しながら、少し新聞を読んでみようと思いました。

僕はテレビを見ていていつも記者の人達を悪い印象で見えていました。でも、今日話を聞いてこの思いは消えました。記者の人達も話を聞くことに対して、辛い思いをしている。その事がよくわかりました。「夜討ち朝駆け」警察の人の家を訪ねて、ずっと待つ。これだけでも僕は嫌なのに

この上、出てきた所を声を掛けて追い払われる。そして追い払われた後、また同じように尋ねる。僕には無理です。僕は新聞記者に対して、すごい人達だなっと思いました。

僕は堀江さんが言っていた言葉が印象に残りました。それは「僕は16回くらい転職してるけど新聞記者はそれが平均くらい言っていたことです」。転職が16回なんて考えたこともなかったのですごいなーとおもいました。しかも堀江さんには子供が2人いると言っていたので尚更たいへんだなーと思いました。他にも「新聞記者は昔は8000人いたのに3500人くらいに減った」と言っていたのは少子高齢化や新聞記者に興味を持たない人が増えてきたり女性の新聞記者が半分を占めているというのはびっくりしました。僕は堀江さんの話を聞いて新聞を改めてすごいものだと実感しました。(新聞記者さんも)

私は今回のNIEの授業を受けて、少しだけでも新聞を読もうと思いました。新聞記者さんの大変さがよくわかったし、新聞のメリットもわかりました。私は、今までインターネットで自分の好きな記事だけ読んでいました。ですが、新聞は1面見るだけで3つくらいのニュースが分かるそうです。だから、初めのうちは1面だけ読もうと思います。それから、「夜討ち朝駆け」という言葉を初めて知りました。よくできてるなと思いました。私の家では朝日新聞をとっているの、これからはがんばって読もうと思います。

僕は、NIEがニューズペーパーインエデュケーションの略だという事を初めて知りました。新聞はスマートフォンの影響で発行数が減少し、それに伴い社員数も減っているという事は印象に残りました。また、新聞会社には政治部・経済部・スポーツ部などとたくさんの部があるというこ

とも知る事が出来ました。堀江さんの講演を聞いて、マスコミなどの取材者は強靱な体力とメンタルが必要だという事が分かり、新聞を作るという仕事の大変さがよく伝わってきました。僕の家では「神戸新聞」をとっていますが、「朝日新聞」との違いが知りたいなと思ったので「神戸新聞」及び、様々な種類の新聞を読みたいと思います。

今日、堀江泰史さんの話を聞いて、「本当のニュースをより早くまた、より正確に届けたいと日々思っている」という言葉が、とても印象に残りました。そんなふうに思いながら、毎日自分たちへの新聞を作ってくれているんだと、知ることができて良かったです。また、日本に43カ所も総局があることを知って驚きました。一つとても驚いたのは、情報を手に入れるために刑事さんの家を探しだすという事を聞いて、正直、とてもひいてしまいました。それと同時に、こんなに苦勞して情報を手に入れているんだということも初めて知りました。最後に、堀江さんは、「この仕事について一度も後悔したことはない」と言っていました。私も将来、まだ何になるかは、見当もつかないけど、自分がこの仕事について後悔しないようにしたいと思いました。

私はこの授業をうけて、新聞の事をたくさん知る事が出来ました。まず、新聞社にはいろいろな部署があることを知りました。そして、どんな部署がありますか？と聞かれたときに西口も答えてましたが、芸能部があると思っていましたが、芸能部ではなく文化部だと初めて知ったので、とても印象に残っています。私はこの授業を受けて、新聞を毎日読まないといけないと思いました。そして、話もとても聞きやすかったので、良く頭に話の内容が残っています。また話をたくさん聞きたいと思いました。

私がこの NIE の授業をうけて、新聞記者の忙しさを改めて感じました。私の周りには新聞系の仕事をしている人はいないし、新聞も読まないのとても新鮮で初めての体験でした。今から私が感じた事を書いていきます。まず、新聞記者が年々減って来ているというのが驚きました。約 3000 人ものが減って改めて新聞の深刻さを感じました。これを聞いて新聞を読んでもみようと思いました。次に部の多さに驚きました。経済部、スポーツ部、政治部のほかに社会部、整理部、化学医療部など聞いたことの無い部もありました。とても驚きました。最後に夜討ち朝駆けという制度を初めて知りました。夜討ち朝駆けとは、警察の家を特定し、家の前でずっとまち、取材をするという制度です。とても大変で新聞記者って凄いなと思いました。新聞記者の事をよく知れて、本当に貴重な体験をさせて頂いたと思いました。今まで新聞記者に対してマイナスな気持ちを持っていましたが、この授業をうけて考えが変わりました。これからは新聞を少しでも読んでみたいと思います。

私は、初めて新聞記者とかの授業を受けて、記者のことや取材をするときなど、どんなことをするのか興味深いことを知ることができてよかったです。新聞は教育としても大切だし、読む力や、新聞を読む楽しさについて、改めてきずくことができました。その中で、私が印象に残ったことは、新聞を読んでもらうために色々なことを行っているということです。最近私は新聞で英単語などの、英語が勉強できる記事などを見つけました。私はこのような取り組みが新聞を読む楽しさにつながると思いました。私は普段はあまり新聞を読んでいませんが、この授業で新聞を読むことや、印象に残ったことや、新聞を読んでたくさんを知ることの大切さなどについて、考

えることができました。これからは新聞を読む回数を増やして、いろいろなことを学んでいきたいと思います。

～今日の NIE の授業について～ 新聞のおっちゃんが自らの権力を都合の良いように使う、公務員や警察官の家をなんとか突き止めて、1 カ月以上の期間、朝(7 時～8 時) 夜(19 時～20 時)に家の前で待ち伏せをし、聞き込みをする、という仕事内容についてのお話がとても面白かったです。

ぼくが、今回堀江さんの話を聞いてびっくりしたことは、新聞社の部がたくさんあったことです。経済部やスポーツ部などしか知らなかったのですが、生活文化部などがあってとても勉強になりました。また、京都アニメーション放火事件などで、マスコミは被害者の実名報道や遺族に無理やり取材している感じがして悪い印象しかなかったのですが、堀江さんが、無心で聞けるわけがないと言っていたので、悪い人ばかりじゃないということがわかってよかったです。

「新聞記者さんの話を聞く」とだけ伝えられたから、どんな人が来るのか分からなかったけれど、堀江さんが面白い方で良かった。堀江さんは、新聞記者の仕事の内容を教えてくださいましたが、私の最初の印象は、とにかく大変なんだな、ということだった。「夜射ち朝駆け」においては、警察の方にも嫌がられるだろうし、そんなすぐには、教えてくれるはずがないだろうから、どれほど根気がいることなのかが、良く分かった。 それと同時に、そこまでしてでも沢山の読者に伝えたい、という情熱と「新聞」への愛が感じられた。 記者の数が減っている中、頑

張ってくださっている方々がいるということに、有難さを感じた。そして、新聞を読もうと改めて思った。

今日の NIE の授業は朝日新聞の神戸総局局長の堀江さんにお話をさせていただきました。今まで、新聞記者について考えたことはなかったし、正直、記者をしている人は面白いニュースを持っている人の周りに集う化け物だと思っていました。でも、今日のお話を聞いて、「記者の方も大変なのだ。今まで失礼な思い込みをしていたな。」と思いました。特に印象に残ったことは、「夜討ち朝駆け」です。新聞に載っているたった一つの記事であったとしてもその記事には記者の努力と「出来るだけ正確な情報を」という思いが詰まっているのだと思いました。また、殺人事件や強盗が発生したとき、新聞記事には被害者のコメントしか載せられていませんが、その裏では、記者の被害者への同情と何を話しかければよいのかという悩みも詰まっているのだと知り、新聞記者って、アメージングで、新聞はファビュラスなのだと感動しました。でも、新聞記者にはなりたくないですね（笑）今までは、新聞は、ざっと目を通すくらいでしたが、これからはもっとじっくり見てみようと思いました。ちなみに、東大に合格した人のうち、ほとんどの人はよく新聞を読んでいたそうですよ！

仕事していると言っても何をしているのか知らなかったのもとても面白かった。夜討ち朝駆けや、部所の仕事内容などは特に面白かった。本職の方が来てくださったので現実感がよく伝わった。将来の仕事選び等において積極的に考える人が増えたと思う。他の職業の方も是非来て欲しい。

今日の NIE で来てくれた堀江泰史さんは最初怖そうと思ったけど話しているところをみるととても優しそうでした。彼のつとめている朝日新聞社の社員が少なくなっていると聞いて(7500人ぐらい~4000人ぐらい)どうしてだろうと思ったら理由はこの頃皆スマホでの電子新聞や若者の活版印刷離れだそうです。こういうことによる社員減少は朝日新聞だけでなく全新聞会社だそうです。そんな厳しい状況とかでも生きのびている堀江さんはとてもすごいと思いました。あと亡くなった人の親族などへの取材などは取材されてる人もつらいけど、取材してる側も本当につらいと思いました。いつもテレビではこの人たち嫌なことばっか聞いてるなって思ったけどこういうのはしかたがないんだなと思いました。これかもいろんなつらいこととかあると思いますが。頑張っしてほしいです。多分これから僕の新聞の読み方が変わってくるとおもいますが。勉強になりました。ありがとうございました。

「堀江泰史さんの話を聞いて」堀江さんは、新聞記者です。新聞関係の仕事をしている方々は、世界中で起こったニュースを、少しでも速くみんな届けようとしてくれているそうです。毎朝、当たり前のように届く新聞に、こんなにも深い思いがこもっていると思うと、嬉しいです！しかし、そういうとらえかたをしない人や、簡単に見る事が出来る電子ニューを、スマホやパソコンで確認する人が増えてきているため、新聞が読まれなくなりました。私は、少しでも多くの人に新聞の大切さを知ってもらい、楽しんで新聞を読んでほしいと思います。東京本社にある部(※社によって表現が異なる)・政治部・経済部・スポーツ部・学芸部(生活文化部)・科学医療部・社会部〔事件の取材など〕・整理部〔レイアウト〕この中で堀江さんは、社会部を経験したらしいです。社会部は、何でも屋さんらしいので、たいへんだなと思いました。今回、お話を聞いて、改めて新聞の大切さや偉大さ、新聞記者の大変さや温かさを知ることができました。

この前の朝日新聞の堀江さんの話を聞いて分かったのは、新聞が出来上がるまでに沢山の人が関わっていて、長い時間をかけて取材をしていることです。堀江さんは芸能関係の取材をしていたようですが、目当ての芸能人がテレビ局から出てくるのをずっと待っていてもその人と会えなかったり、とても大変な思いをして取材をしてるんだなあと思いました。 新聞記者という仕事は、相手の都合によっていつ終われるかわからないし時間も不規則なので、見た目よりとてもしんどい仕事なんだなあと思いました。でも、それだけにやりがいのある仕事なんだなあと思いました。

新聞記事を作るのはとても大変だということがよく分かりました。社会部に配属された人たちは事故や事件の被害者の家族にも取材に行かなければならないので、僕が思うよりはるかに苦労されているのだなあと思いました。朝日新聞社にたくさんの部があることにも驚き桃の木でした。現在毎日新聞を取る人が少なくなっている状況ですが、僕はスマホも持ってないので我が家はきつとこれからも取り続けると思います。安心してください！貴重なお話ありがとうございました。

今回の NIE の授業で私は、色々なことを学びました。今回講師として来てくださった方は、堀江泰史さんで朝日新聞の神戸総局の総局長をしてらっしゃる方です。まず、会社の位置と東京本社にある部について聞きました。その次に夜討ち朝駆けについてききました。新聞記者の人は、夜の 8 時くらいに警察の人の家に行ってその家の人が帰ってくるまで待つて帰ってこなかったらまた次の日に家に行くということをずっと繰り返すらしいです。そうやって、警察の人と絆を結んで情報を聞き出すらしいです。とても気の遠くなる作業で私にはとてもできないなあと思いまし

た。京都アニメーションのお話では、被害者の方や遺族の方に直接取材して情報を得るとおっしゃっていました。涙を流している方に取材するのは、とても勇気がいるし、覚悟も必要だと思います。私は、基本的にネットニュースも新聞もテレビも見ないので、今回のことで、とりあえず興味のあることでもいいからニュースを見てみようと思いました。ちょっとでも最近何があったかどうなったかを知ろうと思います。

今回、話を聞いて新聞記者さんの大変さを知ることが出来ました。仕事内容や、「夜討ち朝駆け」という言葉を聞いてその意味を知ったときはびっくりしました。普段、私は新聞をあまり読まないけど当たり前のように毎日読めることが凄いなと思いました。だんだん新聞を読む人が少なくなってきていて、インターネットで私も情報を知ることが多いです。ですが、インターネットだと知りたい情報しか見ないので、新聞だといろんな情報に触れる機会になるので新聞を読むことが大切なんだと思えました。堀江さんの話を聞いて新聞に興味を持つことが出来たので良かったです。

中学3年

私はほとんど毎日、新聞を読みます。しかし、読む記事はトップ記事や地域欄、科学の記事などと偏っていて、全然読まない記事もあります。だから、今日の授業を通して、普段は読まない欄には主に何が書かれているかや、新聞記者の仕事について知ることができ、すごく楽しかったです。その中で一番心に残っていることは、整理部についてです。社会部や政治部については、新

聞を読むときによく目にしますが、整理部は初めて耳にする言葉でした。新聞に載る部だけではなく、見出しや配置を決める整理部などの、新聞に載らない部もあるということを知って、多くの人の力が重なり合っていてできている新聞はすごいなと思いました。これをきっかけに私も、少しずつでも、普段は読まない記事についても読んでいきたいなと思います。

私はいつも、何気なく新聞を手に取り、何も考えずに新聞を読んでいました。今日の授業では、紙面にある一文字一文字には、たくさんの苦労や思いがあるのだということを知りました。例えば、遺族の方や被害者の方々への取材のエピソードです。今でも何が正解なのか分からないし、正解はないのだと思う、と、堀江さんはおっしゃっていました。そのような話を聞いて、単に、なんとも思わずに新聞を読んでいた自分は、無知だったのだなと思いました。次、新聞を読むときは、その記事が読めることに感謝しながら、一つの活字の重さを感じながら読みたいなと思います。

僕は10月に朝日新聞社の堀江さんに講演会をしてもらいました。僕は新聞を読まないので知らないことばかりでした。一番印象に残っているのは夜討ち朝掛けです。新聞記者は大変な仕事なのは知っていたけど想像以上に大変なんだなと改めて思いました。新聞にはいろんな種類があるのを知って僕も興味がある種類の新聞を読んでもみようと思いました。講演会で聞いたことを思い出して読むとまた違う目で見れるなと思いました。このことは家族にも話して見ようと思いました。

とても勉強になりました。時間さえあればこれまで以上に新聞を読もうと思いました。今のところ休みの日だけでも読もうかなと思っています。とは、言っても教室で読んでいる事の方が多いかもしれないと思います。 記者の人は、大変なんだなというふうに一言でまとめては、行けないなと思うほど大変そうだと思います。夜討ち朝駆けは、すごく眠気や疲れがたまらうなと思いました。手を挙げようと思った時に「何部があるでしょう？」が終わってしまい聴けなかったのですが、「4コマ漫画部」などは、あるのかがすごく疑問になりました。

私が、今回の授業で1番印象に残ったことは2つあります。1つ目は科学部, 社会部, 政治部, 経済部, スポーツ部, とたくさん部があるのにとってもびっくりしましたことです。2つ目は『夜討ち朝駆け』という言葉についてです。最初、私はこの言葉を聞いて「どういう意味？」っと思い、よく聞いてみると、警察官の自宅の近くに夜から待ち伏せてもう帰ってきてたらまたその次の朝早くに待ち伏せることだとわかりました！ これを聞いて私は、新聞記者は本当に大変な仕事だと思いました！ 年々、新聞を読む人が少なくなってきたことを知ったので、頑張って新聞を読みたいと思いました！

堀江さんのお話を聞いて、私は、新聞記者という仕事は大変だけれども大切な仕事だなと思いました。今まで知らなかったことをたくさん知ることができて楽しかったです。例えば、本社にはどんな部があるかや、「夜討ち朝駆け」についてのお話などです。「夜討ち朝駆け」のお話を聞いて、取材をするのはとても大変で、忍耐力のいる仕事なのだなと思いました。新聞は毎日あたりまえのように届いていますが、新聞記者の方や新聞社の方が苦勞して作っているのだなと実感しました。

講師の堀江さんがノリのいい人で、話がおもしろかったです。話の中で「夜打ち朝駆け」という言葉を聞いてすごく根気のいる仕事だなと感じました。長時間、何度もはりこんで追い返されても取材をするなんて、余程の信念がないとできないだろうなと思いました。新聞には記者の人の思いがたくさんつまっているんだなと実感しました。最近はスマホなどのインターネットが主流になり、新聞離れが進んでいると聞きましたが、新聞にはいろんな良さがあるのもったいないなと思いました。家や学校にも新聞があるので、いろんな分野の記事を読んでもみようと思います。

今回の NIE 学習会の授業を受けて僕は、新聞を作るのにはとても時間と労力を使うものだと感じました。新聞には 1 回だけの取材だけではなく 1 ヶ月かかるものの中にはあって一つの新聞を作るだけでも多くの部署がかかわって僕たちの家に届いていると思うととても大変な職業だと感じました。ですが今の時代に新聞を取っている人は減少しており LINE ニュースやヤフーニュースなどスマホで手軽に見ることができるので新聞の必要性が薄れているかもしれないと感じています。実際、ぼく自身も作業しながらテレビでニュースを聞いたり移動の合間に LINE ニュースを見たりするなどはありますが新聞からニュースを見ることはほぼないです。ニュースを読むと読解力が上がったり、語彙力がつく、などの意見もありますが、目に見えてその結果が出ると思わないので、新聞を読む気にはなかなかありません。新聞にどのような変化があれば読む人は増えるのか、考える必要があると感じました。

今まで、新聞記者は取材をするだけ、部門もそんなにたくさん無いと思っていたので、意外なことが多かったです。「夜打ち朝駆け」は初めて聞いた言葉で、意味が分かると、新聞記者ってと

でも大変で、実は体力勝負なのだと驚きました。私が1番興味を持ったのは整理部です。取材をしないで、別の人取材してきた内容の事柄から見出しを作るって、難しそうに感じました。新聞記者の方のお話を聞けて、良い体験になりました。

朝日新聞だけでなく他の新聞も苦勞をして皆が読んでいる新聞を発行しているとは全くわかりませんでした。新聞社の皆さんいつもありがとうございます。

新聞記者の仕事でも種類がたくさんあることを知りました。その中で私は政治部に興味を持ちました。新聞記者の仕事の中のひとつの取材では、やはりなかなか初めは取材を受けてくれないそうです。でも、諦めずに取材を受けてくれるよう、努力するところが素晴らしいと思いました。

京都アニメーション放火の新聞記事のお話の時、新聞記者の遺族への取材の難しさを知りました。私は京都アニメーションのアニメが好きでこの事件は私にとってもとてもつらいことでした。

しかし、今日配られた新聞記者を読み、「忘れないで」という言葉が心に残りました。私は

「新聞記者は読者の心に残るような新聞を毎日書いているんだな」と関心しました。今日のお話を聴いて、新聞記者の仕事とその大変さや、やりがいを知ることができ、新聞に少し興味を持つことができました。そして、新聞を読み、社会情勢を知り、その問題を自分自身で考え、解決の糸口を見つけることがこれからの私たちに大切だと思いました。

僕が10月日に堀江泰史さんの話を聞きはじめて知ったことがたくさんあります。1つ目は新聞社の部についてです。なんとなく政治部や経済部 芸能部等があるのは知っていたけれど整理部や地域報道部ははじめて聞いたので驚きました。特に僕は新聞社の部は取材をするところばかりだと

思っていたけれど、整理部はレイアウト等の編集系の仕事だったので印象に残りました。2つ目は記者の仕事についてです。僕は記者の仕事は取材ばかりだと思っていたけれど、刑事の家に行ったりして情報を得たりしていたので驚き夜討ち朝駆けという言葉がとても印象に残りました。最後に僕は普段あまり新聞を読まないけれど、今回取材の大変さや仕事の内容を知り一度しっかりと新聞を読んでみようと思いました。

今日の授業で、新聞記者さんの印象が結構変わりました。授業を受ける前は芸能ニュースなんかで嫌なところをつかれたり、嫌なこと聞いたりして悪いイメージが多々ありましたが、新聞社のお話を聞いていて、真実を伝えるために朝晩走って一生懸命みんなに伝えるために働いてる事を知りました。悪いイメージしかなかったけど、私たちのために体力や家族の時間をけずってまで働いてくれていることにとても感動したし有難かったです。新聞社のなかに、たくさんの部があることにびっくりしました。特に、芸能部ではない名前が沢山あってなんで芸能部にしないのかなと思いました。とても楽しい人でただひたすら話を聞くだけではなくて当てたりちょっとボケを入れてみたりと楽しい時間でした。自分自身、家で新聞をとっています。が朝日新聞ではなくて神戸新聞なので、ちょっと心が痛かったです。今、私は番組表と淡路欄しか見てなく、あまり新聞のトップ記事を見ませんが、働いて繋いだ新聞の内容をしっかりと読みたいと思いました。とても楽しい時間でした。

私は今回の朝日新聞の堀江さんの言葉で初めて知った言葉がありました。「夜討ち朝駆け」という言葉です。その言葉の意味は夜に待ち朝に聞き込むという意味です。それをしって、新聞記者という仕事は大変なんだなと思いました。私は絶対新聞社には入りたくないです。私はこんな新聞

だったら読むという問に対して、私は、スポーツが好きなのでスポーツの欄が大きい新聞なら毎日よみます。今回の堀江さんの言葉で、一番心に残った言葉は取材する側もいい気持ちじゃないということです。それを聞いた時、私は勘違いが解けました。最後に今回の堀江さんの話はとても役に立ちました。またよろしくお願いします。

今日は新聞記者の堀江さんに記者の仕事や新聞についてのお話を聞きました。直接、新聞記者さんにお話を聞くのは初めてで貴重な経験になりました。そして私が特に印象に残っているのは、「夜討ち朝駆け」という言葉です。堀江さんは新鮮でタメになることをたくさん教えてくれました。地道なことを毎日コツコツと続けている新聞記者さんはすごいなと思ったし、毎日新聞が家にあるのは当たり前すぎて気づかなかったけど、新聞記者さんのおかげなんだなと感じました。

私はこの話を聞いて印象に残ったことが三つあります。まず、一つ目は若者を中心に新聞を読む人が減ってきているという事です。最近テレビやスマホなどを持つ人が増えてきて新聞をあまり読まないという人が多くなってきています。私は、このことから若者の新聞離れはあまり良くないことで私も積極的に新聞を読もうと思いました。二つ目は、新聞社には経済・政治・学芸・社会などの色々な部があることです。私は、ここまで多くの部があるとは思っていませんでした。三つ目は、夜うち朝駆けという言葉が記者の基本ということを教えてもらいとても良い勉強になったという事です。今までこのような言葉をあまり耳にしたことがなかったのでその言葉を自分なりに考え足り、調べたりしたいです。

今回の NIE の授業は、新聞について知らなかったことを沢山知ることが出来て、とてもいい経験になりました。特に印象に残っているのは、新聞記者の基本と言われる『夜打ち朝駆け』です。情報が欲しい相手の家に夜遅くまで、または朝早くから張り続けることですが、私は新聞記者の人達がこうやって情報を手に入れていることにとても驚きました。通い続けても追い返されたりして、まったく情報を手に入れられないこともあるそうです。それでも、粘り強く通い続けると、ちょっとした情報が貰えたりすることもあるそうです。私は、ほんのわずかな情報のために、ここまで頑張る新聞記者の人達の熱意を凄く感じました。

僕は朝日新聞が好きではありません。今からその理由をかきたいと思います。　まずはじめに、朝日新聞は太平洋戦争中に嘘の情報を国民に流していたからです。他の新聞社も実際は日本軍は負けているのに勝った勝ったと言って国民を煽っていましたが朝日新聞は特にしつこかったです。朝日新聞は「日本軍に書かされていた」と言っていますがそこまでしつこく国民を煽る必要はなかったと思います。そもそも日本軍に書かされていたなどという証拠は存在しないのですが。　もっと書きたいですがこれ以上書くと、かなり長くなるのでこのあたりで終わらせておきます。　ご閲覧ありがとうございました。

今日は堀江泰史さんに来ていただき、新聞について詳しく教えていただきました。現在、朝日新聞社で働いている人数は約 4500 人と言っていました。でも、33 年前には約 7000～8000 人いたと言っていました。僕は少し驚きました。そんなに違うのかと、堀江さんはその理由について、みんな新聞を読まなくなっているからだと言っていました。僕はその理由を聞いてすごく納得しました。今日、僕が最も心に残っているのは、京アニの事件についての記事を見たことです。あ

まり長文は読まないのですが、すべての記事を読みました。すごく悲しい気持ちになりました。亡くなった方のお父さんの言葉や若くて無くなった方の記事などを見ると、ほんとに悲しくなりました。堀江さんも記者の方々は亡くなった方の親族の意見などを聞かないと行けないと言っていました。自分なら絶対に聞けないと思いました！！今日堀江さんに聞いたことはすごくためになることでした！ありがとうございました！

今日、堀江さんのお話を聞いて、新聞記者の人はとても大変な仕事なんだと感じました。記者には色々な部門があるんだと分かりました。初めて聞いた部門もありました。堀江さんが、朝日新聞の記者は男性より女性の方が多いいって言っていてびっくりしました!!今まで僕は、どこの新聞記者も男性の方が多いと思っていました。朝日新聞記者の人は4500人って言ってました。自分が思ってた人数より少し上でした。全然僕は新聞の記者についてはあまり詳しくないけれども、この今日の堀江さんのお話で少し分かった気がします。とてもいい経験になりました。

今日の6時間目の授業では、朝日新聞神戸総局からお越しいただいた堀江さんからお話をお聞かせいただきました。朝日新聞は44の総局と東京本社と大阪本社と西部本社と名古屋本社の4つの本社が国内にあり、その他にも支社等があるのでとても大きい会社なんだなと思いました。そして授業の中盤に堀江さんは夜討ち朝駆けという言葉を教えてくださいました。意味は早朝や深夜に取材先に行くことで何時間待っても会えないこともあるのでとても大変そうだなと思いました。しかし、堀江さんはこの仕事が好きでやめたいと思ったことがないとおっしゃっていたので僕も将来その様な仕事に就きたいなと思いました。

今日の堀江さんの話を聞いて、印象に残ったところが2つあります。一つ目は新聞を読む人がすごく減っているというところですか。私はもっと新聞を読む人がいると思っていました。でも、よく考えるとスマホなどのニュースを読む人が増えてきていると感じました。だから、すごくそこが印象に残りました。二つ目は新聞社の中で、学術部や政治部などの部が沢山あるというところが印象に残りました。なぜなら、私は部が3つか4つぐらいだと思っていました。でも、結構あって驚きました。今日、私は堀江さんの話を聞いて良かったなと思いました。知らないことが沢山あってすごくいい勉強になりました。

まず今回堀江さん、お話しして頂きありがとうございました。今回のお話を聞いて自分が印象的だった事を述べます。まず一つ目は夜討ち朝駆けという言葉です。この言葉自体聞くのは初めてだったのですが夜討ち朝駆けの内容がとても印象的でとても記憶に残りました。まず取材される側の方を毎日早朝に訪問し夕方にも伺うという事をいい返答があるまで続けるという事です。しかもそれが1ヶ月を超えるのがざらと言うのがとても大変だと思いました。他にも様々な部署がそれぞれとても大変なお仕事という事を知ることが出来ました。この体験を機に新聞に毎日少しでも触れるようにしようと思いました。

私が今日のNIEの授業で印象に残ったことは、「夜討ち朝駆け」という言葉です。私たちが読んでいる新聞のひとつひとつの記事は、新聞記者の方々の努力で出来上がっているということを知りました。新聞記者の方の「断られても挫けずに取材し続ける」という強い心に感心しました。また、「読者に届けたい」という気持ちがすごく伝わってきました。このことから、誰かのため

に全力で働いたり、地道に努力したりすることの大切さを改めて感じました。新聞について学んだことや新しく知ったことがあったので、もっと新聞に触れてみようと思います。

私の家は新聞を取っています。でも、私はあまり読みません。私の両親は読むように勧めますが、なかなか読む気になれません。でも今日、朝日新聞神戸総局の堀江さんの話を聞いて、今までは何とも思っていなかった新聞はたくさんの人達の手によって作られていることが解り、これからは新聞を読んでみようと思いました。堀江さんの話の中で私が一番驚いたのは、社会部での記者の取材の方法です。「夜討ち朝駆け」という言葉を私は初めて聞きました。とても地道な方法で、記者の人達は、私たちに正確な情報を届けるために根気強く頑張っているのだと思いました。「新聞はたくさんの人達が努力して作られている」そう思うと、新聞はただの情報が書かれた紙ではなく、一つの作品のように感じました。そんな新聞をこれからも届けてもらいたいです。

僕がNIEの授業を聞いて印象に残ったところは、一つの事故や事件の記事を書くのにその事件・事故の担当の刑事さんの家を特定して、追い返されても何回も何回も取材しに行く。という話です。また、僕が意外だなと思ったことは47都道府県のうち、東京本社、名古屋本社、大阪本社、西部本社の4つも本社があったことです。また、僕が驚いたことは部署が予想以上に多かったことです。芸能部などはわかったけど、整理部などが分かりませんでした。将来この仕事に着くか分からないけど新聞に対して、とても興味が湧きました。